



佐賀藩は幕末から明治維新、その後の日本の近代化で活躍する人材を多数輩出しました。その背景には江戸時代からの人材育成がありました。



長崎における佐賀藩士 1867(慶応3)年
左から副島要作、中島永元、副島種臣、相良知安、小出千之助、堤董真、大隈重信、中野健明、中山信彬

佐賀城内に誕生した聖堂

江戸時代、幕府が正式な学問として採用していたのが**儒学**(儒教)でした。

1691(元禄4)年、2代藩主**鍋島光茂**が佐賀城内二



(大隈白田話「より」)

の丸に孔子をまつる「**二の丸聖堂**」を設けています。さらに、3代藩主**鍋島綱茂**の時代には、これを**観頤荘**に移し「**鬼丸聖堂**」と名付けました。多久聖廟の設計・監督にも携わった儒学者**武富咸亮**は、1694(元禄7)年、佐賀城下に「**大財聖堂**」を設けました。

治茂が着手した佐賀藩の藩政改革

1790(寛政2)年には、老中**松平定信**によって「**寛政異学の禁**」が出されます。これによって、儒学の中でも「**朱子学**」だけが江戸幕府における正式な学問とされ、他の学問を学ぶことが禁止されます。

さらに、幕府は、「**昌平坂学問所**」(昌平覺)を直轄の教育機関とし、若い人材の育成を推進してい



観頤荘図
観頤荘は、佐賀城濠の外側南西に隣接した綱茂の別邸でした。

佐賀藩が生んだ偉人たちが

西洋文明の導入で
佐賀藩を雄藩へ

(公海財団法人鍋島研究会提供)



(信託会社提供)
佐賀城跡
鍋島直正像

なべ しま なお まさ
鍋島 直正

1814(文化11)年~1871(明治4)年

札幌の礎を築いた
「北海道開拓の父」

(明治・大正期の北海道(写真編)より)



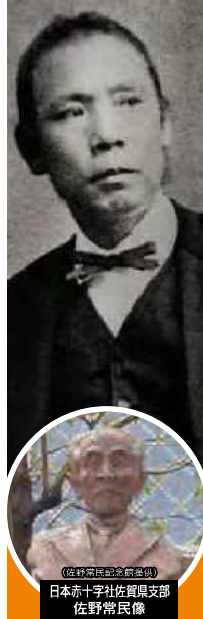
(北海道神宮提供)
北海道神宮
島義勇像

しま よし たけ
島 義勇

1822(文政5)年~1874(明治7)年

日本赤十字社の
生みの親

(日本赤十字社提供)



(佐賀県歴史館提供)
日本赤十字社佐賀県支部
佐野常民像

さの つね たみ
佐野 常民

1822(文政5)年~1902(明治35)年

教育制度の基礎を
つくった初代文部卿

(佐賀県立佐賀城本丸歴史館提供)

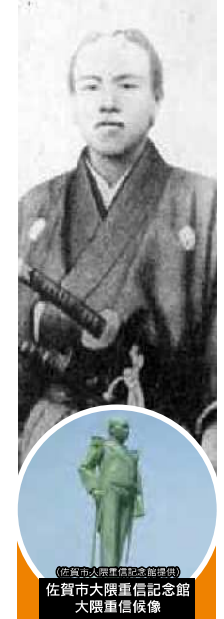


おお き たか とう
大木 喬任

1832(天保3)年~1899(明治32)年

財政・外交面で大活躍
内閣総理大臣に2度就任

(佐賀市大隈重信記念館提供)



(佐賀市大隈重信記念館提供)
佐賀市大隈重信記念館
大隈重信像

おお くま しげ のぶ
大隈 重信

1838(天保9)年~1922(大正11)年

「正義人道の人」として
尊敬された外務卿

(佐賀県立佐賀城本丸歴史館提供)



ぞえ しま たね おみ
副島 種臣

1826(文政11)年~1905(明治38)年

司法制度を確立した
初代司法卿

(北海道大学附属図書館附蔵書館提供)



え とう しん べい
江藤 新平

1834(天保5)年~1874(明治7)年

きました。

佐賀藩は、参勤交代や鎖国による長崎警備の負担が大きく、さらに、飢饉や洪水などの自然災害が発生することで、財政が常に逼迫していましたが、江戸時代後半になると、財政改革が急務となってきました。

8代藩主鍋島治茂は、財政を建て直すために藩政の改革を行いました。1783(天明3)年には、殖産興業を目的とした新しい役所「六府方」

を設置し、また、代官を地域に住ませ、直接農村の行政にあたらせました。そして、治茂がこれらの改革とともに重視したのが、教育改革でした。

藩校「弘道館」で人材育成をめざす

治茂は、円滑な藩政運営を行うには、それにあたる役人の資質によるところが大きいので、有能な人材を育てなければならないと考えました。そこで、教育改革の大きな柱として、1781(天明元)年、佐賀城下



鍋島 治茂

弘道館を創設した第8代佐賀藩主です。

(公益財団法人鍋島報効会提供)



弘道館記念碑

弘道館の跡地を示す記念碑。弘道館の敷地は広く、これより西側に校舎があったと言われています。

(公益財団法人鍋島報効会提供)

松原小路に「弘道館」を創設しました。

治茂は、藩の儒学者古賀精里を弘道館の教授に、治茂の相談役を務めていた石井鶴山を助教に用いました。

鶴山は、かつて熊本に遊学した際、熊本藩が藩校「時習館」における人材育成によって藩政改革を推進したありさまを学び、これを弘道館の運営に生かしました。

一方、精里は、のちに江戸の昌平坂学問所の教授となり、尾藤二洲・柴野栗山とともに「寛政の三博士」と呼ばれました。

9代藩主鍋島齊直の時代になると、古賀穀堂(古賀精里の長男)が1806(文化3)年に弘道館の教授に就任します。穀堂は、1809(文化6)年に「学政管見」を齊直に上申し、その中で、教育経費は削らず増やすべきだとし、教育の重要性を訴えました。また、学問に励まない藩士への戒めと学問を修めた者の登用、儒学だけでなく和

学(古典、国史など)や蘭学、医学などを広く学ぶことの必要性を主張しました。穀堂の「学政管見」は、当時としては先進的な教育提言でした。

鍋島直正による弘道館の再興

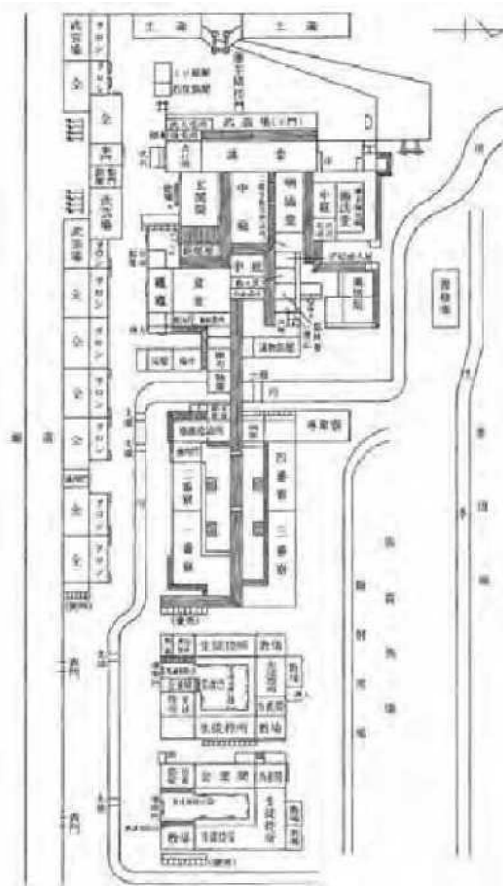
10代藩主鍋島直正は、1830(文政13)年に藩主となると、創設から50年近くたち、当初の目的からかけ離れつつあった弘道館の再興に着手しました。構想のもととなったのは、穀堂の「学政管見」でした。

1840(天保11)年、弘道館を松原小路から北堀端に移転し、広さを3倍にしました。ここには11の武道場が設けられ、7~8歳のころから16歳のころまでの藩士の子弟が学ぶ蒙養舎や、それを終えた子弟が寄宿し寮生活をしながら学ぶ内生寮、年長の者が通う拡充局などがありました。弘道館の責任者は実力があつた家老の鍋島安房(茂真)で、そのもとで、多久の生まれで全国的に著名であつた儒学者草場佩川、江戸で穀堂の弟古賀侗庵に学んだ武富圀南など、優秀な教官たちが教えました。



弘道館を臨む 鍋島安房の家から北堀端を隔てて見える弘道館の光景です。

(公益財団法人鍋島報効会提供)



(佐賀県教育史4巻より転載 所資料公益財団法人鶴屋報効会提供)

北堀端の弘道館の図

開校の際、直正は、「文武を励み、国家の御用に立つ様、心掛くべし」と訓示しました。

者は、身分の上下に関係なく、佐賀藩の役人として登用されたり、留学の道が与えられたりしました。一方で、25歳までに定められた学問を修めることができない者は、一時的に家禄の一部を没収されたり、藩の役職に就くことができなかつたりする時期もありました。

弘道館では、儒学以外にも武芸として柔術、弓術、馬術などを教えました。

明治時代に活躍した副島種臣、大木喬任、久米邦武^{くめくにたけ}などが弘道館の教育にあたった時期もありました。

このような教育のため、佐賀藩士には文字の読めない者はなかったと言われています。

武富圪南は、1855(安政2)年のころのこととして、生徒数を、蒙養舎約700名、内生寮約450名、拡充局約300名と記しています。

弘道館の教育は厳しく、実力主義が徹底されていきました。成績優秀な

佐賀藩が生んだ偉人の足跡を学ぼう

直正が建てた本丸を復元 佐賀城本丸歴史館



(佐賀市観光協会提供)

時代を先導した「幕末・維新期の佐賀」をテーマに佐賀城の歴史や佐賀藩の科学技術、佐賀が輩出した偉人に関する展示があります。
[住所] 佐賀市内 2-18-1
[TEL]0952-41-7550
[開館]9:30 ~ 18:00

佐賀藩近代化の軌跡と博愛精神 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館



(佐賀市提供)

佐野常民の偉業や博愛の精神を学ぶ拠点施設として、佐野常民に関する資料や遺品、三重津海軍所の資料などが展示されています。
[住所] 佐賀市川副町大字早津江津 446-1
[TEL]0952-34-9455
[開館]9:00 ~ 17:00

佐賀のお殿様の博物館 徴古館



(財団法人鶴屋報効会提供)

佐賀県内初の博物館で、鍋島家伝来の歴史資料や美術工芸品が展示されています。文化庁の登録有形文化財です。
[住所] 佐賀市松原 2丁目 5-22
[TEL]0952-23-4200
[開館]9:30 ~ 16:00

日本初の政党内閣を率いた佐賀県の巨星 大隈重信記念館



(佐賀市提供)

大隈重信生誕125周年を記念して建てられました。大隈重信に関する資料があり、隣に生家が保存されています。文化庁の登録有形文化財です。
[住所] 佐賀市水ヶ江2丁目11-11
[TEL]0952-23-2891
[開館]9:00 ~ 17:00(入場は16:30まで)

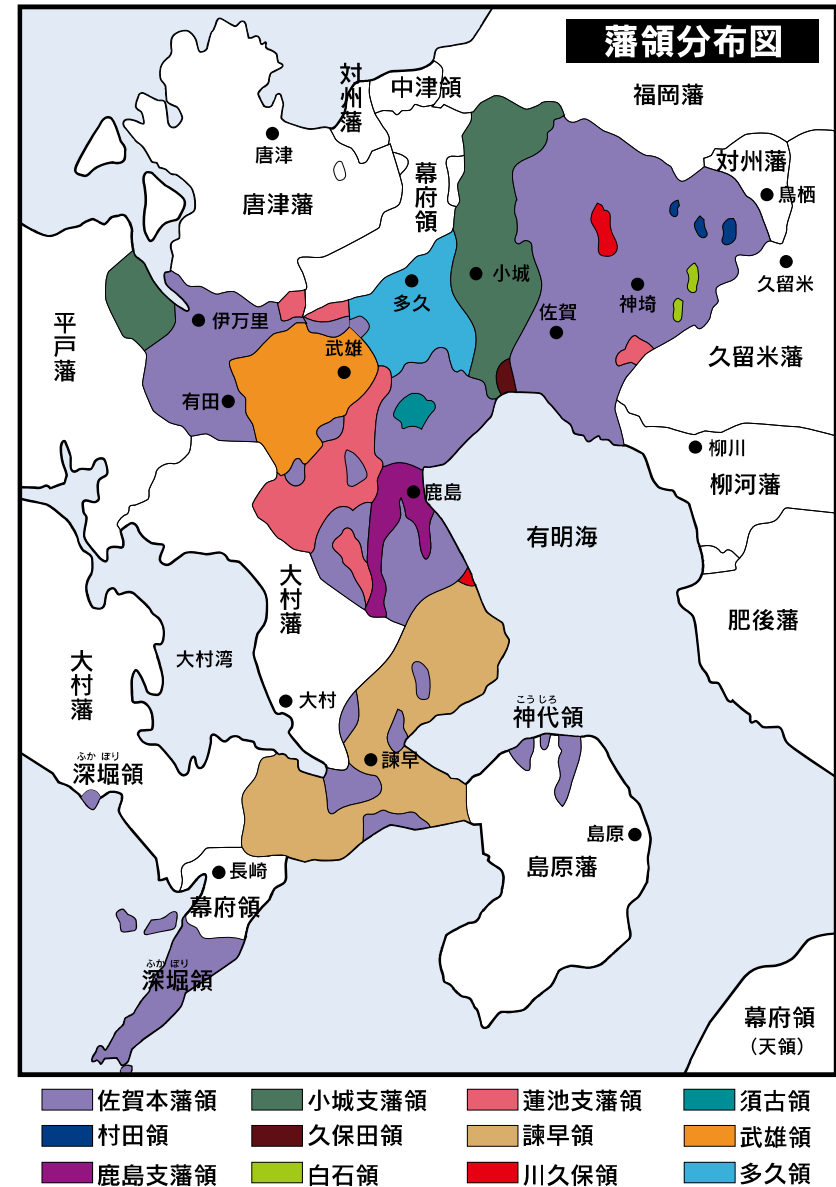


弘道館に所蔵された書物類

儒教の基本「五経」の一つである「礼」についてまとめた「礼記」や「古事記」などが使われていました。

弘道館からは、明治政府のもとで活躍した島義勇、佐野常民、副島種臣、大木喬任、江藤新平、中牟田倉之助、大隈重信、久米邦武などの多くの人材が育っていきました。

直正は、弘道館のほかにも、当時最先端の学問を身に付ける場を創設しました。従来の医学とともに西洋医学も学ぶことができる「**医学寮**」を設立し、さらに西洋の学問を専門に学ぶ「**蘭学寮**」も設立しました。「蘭学寮」では物理、化学、数学などの研究が行われました。



(武雄市教育委員会提供)



中牟田 倉之助
(『佐賀興教育史』より)
 戊辰戦争や西南戦争で活躍した海軍軍人です。のちに海軍大学校長や秘密顧問官も務めました。

COLUMN

鍋島直正・三つの改革
 財政再建・農村改革・教育改革

藩政改革を行った10代藩主・直正は「名君」と言われます。

改革①財政再建：借金体質の佐賀藩で、質素・倹約を奨励する一方、焼き物、石炭、鯛といった産業を発展させて財政を立て直しました。

改革②教育改革：財政再建で得た資金を教育に注ぎ込みました。

改革③農村改革：地主の農地を農民に分け与えることで疲弊した農村を救いました。

19世紀、日本中に農民一揆が起りましたが、佐賀藩では起こりませんでした。このことが直正の農村改革の成功を物語っています。

広く門戸を開いた東原庵舎

佐賀藩には、鍋島本藩と三つの支藩があり、そのほか、親類、親類同格の領地がありました。これらの各領主も、弘道館とは別に藩士の教育に熱心に取り組んできました。

多久領4代領主の多久茂文は、のちに「東原庵舎」と呼ばれる学問所を領内の東の原山麓に設けます。初代教授には河浪自安が就きました。「東原庵舎」が当時として先進的だったのは、武士の子弟だけでなく、農民や町人の子弟にも門戸を開いたことです。ここからは、明治時代に活躍した法学の鶴田斗南、電気工学の志田林三郎、物理学の飯盛挺造、炭鉱開発の高取伊好など、多くの人材が生まれました。

武雄領の「身教館」からは、岩倉使節団に副使として参加した山口尚芳がいます。このほか、「興讓館」(小城藩)、「成章館」(蓮池藩)、「弘文館」(鹿島藩)、「思齋館」(久保田領)、「三近堂」(須古領)など、佐賀藩内には多くの教育機関がありました。8代治茂が推し進め、10代直正まで引き継がれた教育改革は、佐賀藩内に強い影響力を与えました。

佐賀藩の教育は、幕末から明治時代に活躍した多くの人材を生んだ礎となっています。

学校の取組

【佐賀藩にまつわる劇の上演】

佐賀県立佐賀東高等学校
 演劇部

郷土の歴史と人々の生きざまを伝えるために、県内外で劇を上演しています。



調べて書いてみよう！

身近な地域の出身者で、幕末から明治時代にかけて活躍した人を調べて書いてみましょう。



読んでみよう！

佐賀偉人伝01～15
 『鍋島直正』『大隈重信』『岡田三郎助』『平山醇左衛門』『島義勇』『大木喬任』『江藤新平』『辰野金吾』『佐野常民』『納富介次郎』『草場佩川』『副島種臣』『伊東玄朴』『枝吉神陽』『古賀穀堂』
 佐賀城本丸歴史館刊



検索してみよう！

直正改革

東京遷都

歴代内閣

